



酪農試験場だより

No. 87



◀ 南那須育成牧場の
放牧風景

傾斜地用トラクター
による掃除刈 ▶



今月の内容

- 1 今年のトウモロコシの生育は？
- 2 酪農試験場への要望・質問の回答
- 3 牧場の施肥、ちゃんとやっていますか？

今後の自給飼料分析受付日 7/8 (水) ・7/22 (水) ・8/19 (水) ・9/2 (水)

今年のトウモロコシの生育は？



今年は、暖冬の影響で春先は高温で経過したものの、6月に入ってから平年より低温に転じました。また、平年より降水量が多く、日照時間が少ない状況です。一部では湿害の発生している圃場も見受けられます。

酪農試験場では、トウモロコシの生育が平年に対して進んでいるのか？、遅れているのか？を推定する研究に取り組んでおります。今回はその手法を用いて今年の生育について推定を試みました。

右の表は、6月15日時点で、今年のトウモロコシの生育を予測したものです。4月に播種されたものは、平年より2～5日生育が早まっています。5月中旬までに播種したものは、ほぼ平年並みの生育、5月下旬以降に播種したものは平年より2～3日遅れている状況です。絹糸抽出期について6月15日以降、平年よりも気温が高く経過した場合、平年並みに経過した場合、低温で経過した場合の、推定を行いました。今後平年並みに気温が経過した場合、4月播きで7月中旬に絹糸抽出期を迎え8月下旬には収穫適期の黄熟期になると推定されました。6月播種では9月下旬に収穫適期となります。

表 トウモロコシの生育予測

早生品種 播種期	6/15現在 生育遅速	絹糸抽出期			黄熟期予想
		以降高温	以降平年	以降低温	
4月中旬	+5	7月10日	7月14日	7月18日	8月21日
4月下旬	+2	7月15日	7月19日	7月23日	8月26日
5月上旬	+1～2	7月20日	7月24日	7月29日	9月1日
5月中旬	±0	7月24日	7月29日	8月3日	9月6日
5月下旬	-2	7月30日	8月4日	8月11日	9月13日
6月上旬	-2～3	8月5日	8月11日	8月18日	9月21日

中生品種 播種期	6/15現在 生育遅速	絹糸抽出期			黄熟期予想
		以降高温	以降平年	以降低温	
4月中旬	+4～5	7月7日	7月10日	7月14日	8月25日
4月下旬	+1～2	7月12日	7月15日	7月20日	8月30日
5月上旬	±0	7月17日	7月21日	7月26日	9月4日
5月中旬	±0	7月22日	7月26日	7月31日	9月9日
5月下旬	-2	7月27日	8月1日	8月7日	9月16日
6月上旬	-2～3	8月2日	8月8日	8月15日	9月25日

晩生品種 播種期	6/15現在 生育遅速	絹糸抽出期			黄熟期予想
		以降高温	以降平年	以降低温	
4月中旬	+4	7月7日	7月10日	7月14日	8月26日
4月下旬	+2	7月12日	7月15日	7月20日	8月31日
5月上旬	+1～±0	7月17日	7月21日	7月26日	9月6日
5月中旬	±0	7月22日	7月26日	7月31日	9月11日
5月下旬	-1～2	7月27日	8月1日	8月7日	9月19日
6月上旬	-2	8月2日	8月8日	8月15日	9月27日

注) 生育遅速の+は平年よりも早く-は平年よりも遅い日数を表す

今年は、播種期によって生育に違いがみられますので、注意深い観察で収穫適期を逃さないようにしてください。

(草地飼料部 星一好)

酪農試験場への要望・質問の回答

酪農家の皆様には一番草の刈り取り・サイレージ調製やトウモロコシの播種で忙しい時期に「飼料分析に関するアンケート」に回答いただきありがとうございました。このアンケート結果を自給飼料分析指導事業をはじめとする試験研究・事業に活用していきたいと思ひます。

今回は、アンケートの中で酪農試験場への要望・質問が数多くありましたが、その中でも複数の方から質問のありましたものについて回答したいと思ひます。

要望・質問	回 答
飼料分析時にモデルとなる飼料設計例の添付	希望者には分析結果を基にした給与設計を行いますので牛の条件や飼料名、給与量、牧草のステージを正確に記入して下さい。また、「高泌乳牛の飼養管理マニュアル」の配布も行っています。
飼料分析の迅速化	できるだけ速やかに分析したいと思ひます。希望があればFAXでの通知も行います。
分析値からの対応策	品質に関してコメントを付けておりますので、粗飼料生産の参考になさって下さい。
稲わらの有効利用	稲わらはエネルギーが低く、また、利用できない繊維も多く分解速度が遅いため採食量も減り乳量の低下が起りやすくなりますので、泌乳ピーク時の給与は難しいと思ひますが、泌乳末期や乾乳牛には給与診断をした上での給与は可能です。また、稲わらを集草するときに泥等が混入しないようにして下さい。
酪農試験場の公開	酪農に関するご質問等は常時受け付けておりますのでお気軽にご連絡下さい。また、試験成績がまとまった時には酪試日より等で速やかにお知らせします。
受精卵及び優良雌子牛の販売	スーパーカウの受精卵を有償配布しております。また、今年度からスーパーカウ等の高能力牛の受精卵を移植した初妊牛を配布する事業を開始しますのでこれらを活用下さい。

(経営調査部 濱田勉)

牧場の施肥、ちゃんとやっていますか？

～緩効性肥料を利用した放牧草地の施肥管理～

公共牧場に代表される放牧草地を維持してゆくには、年に3～4回の追肥が必要です。しかし、実際には天候や地形、労力や資金不足などの理由から、適切に管理できない場面が多いようです。

そこで、「施肥作業を一回で済ませることができたなら・・・」と考えます。

そんな発想で生まれたのが緩効性肥料です。肥料成分がゆっくり溶け出すように作られたこの肥料は、もともと野菜や花卉を対象に開発されたもので、現在では水稲をはじめとする様々な作物にも応用されています。

もちろん放牧草地にも使えます。右図は霧降高原牧場での試験結果です。

秋の草地更新時に緩効性肥料（商品名：ログ424）の基肥のみとし翌年の追肥を省略した場合と慣行法（基肥・追肥とも速効性肥料）による場合の乾物収量を比較しました。

番草ごとに見てみると速効性肥料による慣行法と遜色ないことがわかります。

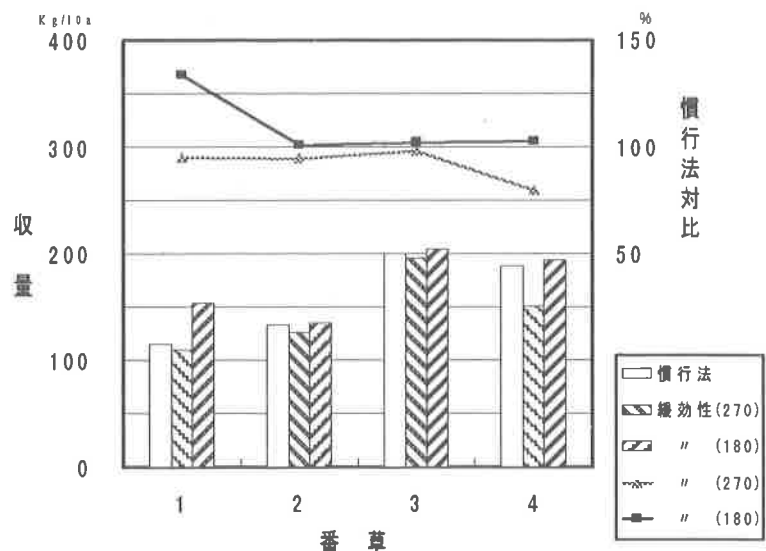


図 乾物収量 (慣行法との対比)

また、溶出タイプ（この肥料は成分溶出期間別に7タイプある。）を選定することにより、季節ごとの生産量を放牧に適した形にならすことも可能となります。

ただし、基肥の場合、その効果は草地更新後1年限りです。2年目以降も多少の肥効は期待できますが、基本的に追肥が必要となります。現在、年1回施用を目指して追肥の試験を行っていますので、間もなく結果をお届けできると思います。

なお、近年環境問題がクローズアップされていますが肥料も例外ではありません。緩効性肥料は利用率が高く成分流亡による環境負荷を低く押さえられるので期待されている素材の一つです。

(南那須育成牧場 沼野井憲一)

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No87 〒329-2747西那須野町千本松298

平成10年7月1日

電話0287-36-0280